

# 道博協ニュース

## 第33号

発行所 北海道博物館協会  
事務局 札幌市厚別区厚別町小野幌  
北海道開拓記念館内  
電話 011-898-0456  
FAX 011-898-2657

### 平成二年度博物館活動交流推進会議

#### 全道ブロック館長会議の開催

北海道博物館協会及び北海道開拓記念館が主催する「平成二年度博物館活動交流推進会議、全道ブロック館長会議」が、平成二年十一月九日、十日の両日、札幌市中央区北3条西7丁目、道庁別館十二階、北方圏センター会議室で開催された。

この会議は、平成二年度から平成六年度までの五カ年計画による「博物館ネットワークづくり事業」の一環として実施したものである。

会議の主旨は、道内の博物館・園に勤務し、館・園の管理・運営に携わる職員ならびに教育委員会等の関係者が一堂に会し、地域における博物館・園の相互援助と連携・協力体制のあり方、博物館活動の充実・発展の方途について

研究協議し、本道の博物館・園の発展に寄与する、ということであり、全道各地の博物館長、運営責任者等六十五名

を集めての会議であった。

会議は第一日目、北海道博物館協会会長を兼ねる渡邊左武郎記念館長の挨拶にひきつづき日本博物館協会専務理事毛利正夫氏の「日本の博物館の動向と展望」と題する講演が行なわれた。



講演の内容は、平成二年六月二十九日に公布された「生涯学習の振興のための施策の推進体制等の整備に関する法

律」の成立に関する経緯や各条文の解釈についてであった。

とくに、第三条、五の2。北海道府県の教育委員会は、前項に規定する事業を行うに当っては、社会教育関係団体その他の地域において生涯学習に資する事業を行う機関及び団体との連携に努めるものとする。という条文と、第五条に規定されている地域生涯学習振興基本構想は、今後の博物館運営にとって重要な方向性を示すものであるとの指摘があった。

講演後、十五分の休憩をはさみ、十五時十五分から十六時三十分まで質疑応答となり、道内博物館運営や学芸員問題など基本的課題や各博物館の現状まで幅広い意見の交換がなされた。

また、十七時三十分から場所を移して行なわれた交流会でも胸襟を開いた種々の意見交換が行なわれ有意義な時間を

を過ごすことができた。  
会議の二日目は九時三十分から十一時三十分の日程で、釧路市博物館長沢四郎氏の司会で参加者全員による研究協議が行なわれた。

まず、第一番目の提言として北海道開拓記念館矢野牧夫学芸部長が「博物館・園のネットワーク・ワーキング化について」というテーマで北海道開拓記念館の博物館等ネットワークづくり事業を軸に道内各博物館・園の連携による今後の博物館活動の方向性についての提言があった。移動展示、資料の貸借、情報の交換、研究の提携等ネットワーク化による博物館相互の連携が今後の博物館・園の発展に不可欠の要素であるという主旨であった。

つづいて、「博物館等連絡協議会の設立と今後の活動」というテーマで、網走管内博物館連絡協議会の設立経緯と活動を北網圏北見文化センター館長大原利夫氏が、また、道北地区博物館等連絡協議会の設立の経緯と活動について

旭川市立旭川郷土博物館長金子民男氏の報告があった。

## 博物館活動交流推進会議を終えて

昭和六十二年三月に設立された網走管内博物館連絡協議会は現在十六市町村二十二館の会員をかかえ、各年度行われる研修会のほか情報交換、各博物館の資料の貸借など、きわめて活発な活動を続けて

去る十一月十七・十八日、平成二年度博物館活動交流推進会議（道東ブロック学芸員等会議）が釧路市立博物館を会場に開催されたところですが、このような交流をより一層深め各館間の連携を図ろうという事で平成元年四月、

何はともあれこのような連絡協議会が発足し、それぞれが前向きな姿勢で臨んでくれましたこと、まずは一安心したところ、このように近隣の施設と手を結び職員間の連携を図ることは、生涯学習推進がさげば

「これからの博物館はアメリカとイギリスの博物館を中心として」と題して、世界各地を訪れることが多かった佐々先生がこまめに足を運んだ数多くの博物館を約百二十枚のスライドを交え紹介されました。

午後三時十五分より研究協議に入り、帯広百年記念館の佐藤学芸員からは事業の実態を、釧路市埋蔵文化財調査センターの西次長からは今年初めて開催された釧路市立博物館友の会主催の「博物館まつり」について、根室市博物館開設準備室の近藤学芸員からは地域の特殊性も含め、博物館等の社会教育と学校教育との連携など、これからの教育普及のあり方についてそれぞれ発表いただき、活発な意見が交わされました。

また、昭和六十年十月に発足した道北地区博物館等連絡協議会は毎年二回程度実施する巡回展で大きな成果をあげ、最近では会報の発行や職員研修会を開くなど活動が大きく前進しているが、会則・規約等の制約にとらわれず、各館が連絡協議会の運営に対し自主的な努力を重ねているのが特徴となっている。

十勝、釧路、根室各域の博物館等施設に呼びかけ連絡協議会をつくることになりました。発足会として平成元年八月二十九日、帯広百年記念館や根室市博物館開設準備室など十市町村の方々に集まり願

開き更に審議をした結果、名称を「道東3管内博物館施設等連絡協議会」としました。平成二年六月十五日、正式に総会を開催した結果、会長と事務局を当館に置くということとして博物館活動交流推進会議の開催、連絡紙の発行等が

主権者側として、北海道博物館協会会長であります渡邊左武郎先生のほか開拓記念館の山田健・丹治輝一両先生にお願いいただき、また道東3管内からは当館も含め八つの施設の方々に集まりいただきました。

研究協議の後、バスに乗り込み標茶町の「かや沼温泉」へ移動し、浴衣姿の交流会はそれぞれの話しも弾み、意義ある一夜でありました。翌十八日、九時より当市社会教育主事室長の濠木氏による「生涯学習の推進について」の講演をいただいた。

提言及び報告ののち、研究協議に移り、出席者のほとんどが各館、各地域の事情を表すなど盛會裡に会議が終了した。

第一日は、午後一時三十分より北海道大学名誉教授の

自然史から探検家の人間像に至るまで多方面に渡る造詣の深さや、各博物館の特色や趣旨を適確に紹介された一時

生涯学習社会要請の背景、生涯学習のまちづくり等の推進についての講演に各館の意見が交換されました。

私自身、博物館等の施設が

## 北海道博物館協会

事務局長 矢島 睿

決まりました。

分より北海道大学名誉教授の

市民も数多く訪れ会場を埋め

が



今まで種々開催してきた教育普及事業こそ、正に生涯学習

そのものだろうと思うし、これをいかに展開していくか、またいかに連携していくか、ネットワーク化していくかが鍵だろうと思っております。

その意味では、この度の会議や新たに発足した道東3管内博物館施設等連絡協議会を大事に育てていかなければならないだろうと考えております。

講演の後、湿原遊歩道の散策、バスでのコックロ湿原見学を楽しみながら釧路の新しい顔「フィシャーマンズ・ウィフ」で昼食をとり、閉会となったわけですが、当市が中心となって開催した初めての会議が無事終了し胸を撫で下ろしているところであります。

参加されました方々はもとより、関係各位に深く感謝する次第です。

来年以降も引き続き開催される由、もっと多くの方に参加いただき、ますます発展することを願って止みません。

### 釧路市立博物館

主査 向井 佳朝

### 「道南ブロック博物館施設等連絡協議会」

#### 発足に向けて

平成二年十二月七日、八日の二日間、道立函館美術館の講堂において、道南ブロック博物館施設等連絡協議会の準備会が開催された。

これは、予てから北海道開拓記念館や北海道博物館協会から道南の博物館等のネットワーク化について、市立函館博物館に対して協力を依頼されていたものである。既に網走管内では組織ができており、今後北海道各地に広げようというものである。

当函館博物館では、以前から道南の館園とは資料の貸借や学芸員の情報交換などの協力関係があり、いつかは連携をとる組織の必要性が話題に

されていた。今回これを発端として公式な組織として認められ、より活発な共同研究や事業の共催、そして相互の支援体制が継続して行える前向きのものであれば、この上もない好機である。ぜひこの組織を発足させるべきであるという

ことになり、その準備を

引き受けることにした。

とは言え、各自治体の博物館等は、施設およびスタッフやその業務内容について異なる点が多く、また私立の博物館等については内情が全く違う。これらの状況の異なる博物館等をまとめていくことは至難なことで、この協議会を組織したことによって向上するはずの博物館活動が、かえってマイナスに作用しないかという懸念された。特に事務局を引き受けた館園は仕事量が増える。

木村繁館長を準備事務局長に慎重に計画が練られた。そして、一挙に組織化すると問題が噴出することもあるので、ある程度の期間をもって意見を聞きながら進める。まず当館と交流の頻繁な函館市内の館園の親睦組織を中心にし、

試みにいくつかの事業を行って見て、軌道に乗った時点で渡島管内にも加入を案内していく方法も考えていた。しかし、開拓記念館からの要望も

あり、初めから渡島管内でまとまることになった。

その後、事務局長は渡島管内の博物館施設および教育委員会と協議を重ね「渡島管内博物館施設等連絡協議会」を発足させようとした。

一方、絵山管内においてもネットワークの話が持ち上がっていた。よって、当館と江差町教育委員会と話し合いを持ち、発足するのであれば道南ブロックをまとめた形でのいうことになり、今回の準備会の開催となったものである。

七日午後、会場に道南の館園や教育委員会の職員と主催者の開拓記念館の職員および状況を視察にきた岩見沢市教育委員会の職員等三十名がぎつぎと参集した。

まず、北海道開拓記念館安藤副館長の開会挨拶で始まり、つづいて「網走管内博物館連絡協議会の活動経過と課題」と題し、網走管内博物館連絡協議会事務局長久保勝範氏（北網圏北見文化センター指導係長の講演があった。博物館等にとって相当具体的な内容で、質問も直接個々の仕事に係わる問題が提起され、民間の博物館施設との関係も含めて、今後の道南ブロックの大きな課題になりそうである。一旦休憩の後、議事に入り、開催地を代表して市立函館博物館木村館長の挨拶、つづいて松前町教育委員会の久保泰氏を議長に選出して協議に入った。

最初に道南ブロックの連絡協議会が必要か否かが議題となったが、全員一致で組織すべきとの意見であった。つづいて、大きな問題である負担金については、いくつかの意見も出されたが各博物館および各市町村単位で加盟し一律三千円とするということとなった。しかし、自治体によつては、すぐに予算を認められない館園もあり、これらについては負担金を納めた時点で正式加入してもらうこととなった。会則については、原案のとおり承認され、施行は平成三年四月一日からとし、函館博物館と江差教育委員会が創立総会の幹事館として、加

成三年四月一日からとし、函館博物館と江差教育委員会が創立総会の幹事館として、加

入の申し込みを受け、総会の準備と事業計画案・予算案・役員の人選を進めることとなった。

夕刻より、交流会が五稜郭タワー史跡館横の稜雲亭で開催された。白熱した昼間の会議とは打って変わって和やかな宴会で、各館の状況や創立される道南ブロック連絡協議会の話に華が咲いた。

八日には、函館市北洋資料館や市立函館博物館五稜郭分館を視察し、熱心な見学は予定の時間を大きくオーバーしてしまった。

さて、この「道南ブロック博物館施設等連絡協議会」が発足すれば、道内三番目になるそうである。

渡島・絵山管内の館園が、この組織を有意義なものとして育て、われわれ博物館等に関係している者がより効果的活動を展開し、個々の郷土の発展に役立つよう努力できるように、知恵を出し合ってゆきたいものである。

(市立函館博物館)

岡田 一彦

○平成二年度

日本博物館協会顕彰者

平成二年十月二十六日に金沢市で開催された第三十八回全国博物館大会で、次の方々が、日本博物館協会顕彰規定に基づき顕彰されました。(規定1号)

斉藤建二(旭川市立旭川郷土博物館)

土屋周三(小樽市博物館)

佐々木茂義(小樽市博物館)

赤松守雄(北海道開拓記念館)

丹治輝一(北海道開拓記念館)

山田悟郎(北海道開拓記念館)

○平成三年度全国博物館大会の開催日程

平成三年度に開催が予定されている第三十九回全国博物館大会は、下記の日程、会場で行われます。

期日：平成三年十一月七日

・ 八日

会場：徳島市

徳島県立博物館

◇館・園の主な行事計画(1月から3月まで)◇

●札幌市資料館 3・24まで  
市町村文芸誌展  
●札幌市青少年科学館  
1・16～20札幌市天文台夜間公開、1・25～27初心者のための「星空セミナー」、2・11科学映画会、2・27婦人科学講座、2・13～17札幌市天文台夜間公開、3・16～4・5春休み特別展「仮」エジソン展、3・3初心者のための「星空セミナー」3・13～17札幌市天文台夜間公開、3・28、29マイコン教室(小5～中学生)

●札幌芸術の森  
1・13～3・24おもちゃクラフト展、一月末～4月下旬フトコンテスト、2・1～3・17芸術が都市をひらく展、3・23～5・26梁川剛一さし絵展

●北海道開拓記念館  
1・8～2・10第84回テーマ展「曲輪と曲物」、2・19～3・24第85回テーマ展「サハリンの遺跡」、2・15博物館実習講座シリーズ「資料の梱包と取り扱い」、3・3講演会「古代におけるサハリンと北海道の文化交流」、3・18観察会「森を歩く―動物の足跡―」

●札幌市青少年科学館  
2・1～2・3「節分」、2・1～2・27「羊毛をつなぐ」、2・24～3・3「ひなまつり」、3・1～3・30「鯨のいろいろ」

●北海道開拓の村  
1月毎週土、日、祝日 伝統遊具づくり「蝦夷風」、2・1～2・28特設展「開拓の村冬の自然」、2月毎週土、日、祝日 伝統遊具づくり「竹スキー」、3・10～3・31第5回北海道開拓の村写真コンテスト

●北海道近代美術館  
1・5～1・27特別展「子どもと親の美術館'91」、2・9美術講演会「昭和の北海道美術―自立への展開―」、2・23～3・9講座「アート・トーク」、毎月第2日曜日「映画会」、2月文書等保存利用機関団

●北海道立文書館  
2月文書等保存利用機関団

●北海道立函館美術館  
1・6～2・10特別展「北海道今日の美術展」、2・17～3・24所蔵品展「日本画名品展」

●美唄市郷土史料館  
1・18～3・14特別展「写真でみるびばいの歩み」

●北海道立旭川美術館  
1・5～2・17所蔵品展「旭川の絵画」、2・23～3・24特別展「北海道・今日の美術」、2月上旬ミュージアムシアター、2・16、23、3・2、9、16、テレビセミナー

●苫小牧市博物館  
3・3～3・31第19回特別展「郷土の画家たち展」

●室蘭市青少年科学館  
1月冬休みマイコン教室、2月親子工作教室(実技指導)

●室蘭市民俗資料館  
1～2月体験学習「カマクラ作り」、3月体験学習「祝儀袋・水引飾り」

●帯広百年記念館  
2・17観察会「冬の自然観察会」

●釧路市博物館  
3・11～4・15収蔵資料展

## 館園紹介

### 端野町立歴史民俗資料館

当館は昭和五十八年五月、「屯田の杜公園」内に開館しました。

この公園は文字どおり、屯田兵の中隊本部があった所で、現在は町の風致地区として指定されています。資料館を始め図書館、トレーニングセンター、ウォーターパーク、公民館、太陽広場などがあり、緑の森に囲まれた町民の憩いの場となっています。

### 「町の資料館」として活動

当資料館は名称のとおり、

生活用品、農具を中心とした民俗資料を主として展示していますが、「町の資料館」として郷土館の性格が求められ、歴史・自然にかかわらず活動を行っています。

当館の資料は、端野町の本格的な開拓が屯田兵によってなされたこと、また農業が基幹産業であることから、それらの関係資料が中心となっています。

### 本物の屯田兵屋が展示

まず屯田兵関係では、当時の兵村風景を再現したパノラマ「端野の夜明け」があります。また館内には実際に使用されていた屯田兵屋と生活の様子が複製されています。中に入ると、屯田兵だった人々の声がテープによって流れ、入地当時の苦難が語られます。今となっては貴重な記録といえるでしょう。

その他にも屯田兵の肖像画が百七十九点（馬堀法眼画伯作・日本肖像画協会総裁、軍隊手帳、官給品など多くの資

料が展示されています。

農業関係では、開拓当時の農具から昭和前期までの農業機械が展示されており、稲作、畑作ごとに時代を追って見る

ことができます。

### 蒸籠型のハツカ蒸留機も

またハツカは北見地方の特産品でしたが、端野町でも大きな位置を占めていました。

館内には大正時代の蒸籠型のハツカ蒸留機が分水器とともに展示されています。この時期の蒸留機はあまり見当たらず、貴重な資料といえます。

その他にも明治、大正、昭和にかけての生活用品や消防用具、教育・行政資料などが展示されています。

考古資料としては、旧石器時代の土器、石棒など全道の時代の上口遺跡の石器や擦文にも知られたものがあります。

### 資料館シリーズを発行

現在の活動としては、現在歴史、自然に関する各種の調査を行っています。その結果をもとに「資料館シリーズ」として冊子の発行をしています。

これまでは「端野町の保存樹

木」「端野町のアイヌ語地名」を発行し、来年度は「和地名」「野鳥」などを計画しています。また収蔵目録も発行の予定です。

来年は中央道路開削百周年（網走～上川間）が開削百周年を迎えるため、記念事業を計画しています。これは道路の建設のために囚人が使われましたが、数多くの犠牲者が出ました。端野町にはその犠牲者を吊った「鎖塚」という史跡があります。端野町の本格的な開拓は、屯田兵によ

て始まりましたが、その基礎を作ったのは、名も知れず倒れていった囚人たちだといえます。

資料館にはその鎖塚の名の由来となった鎖が展示されています。

### 「端野町立歴史民俗資料館 案内」

所在地・常呂郡端野町字二区四六九番地

電話番号・〇一五七 五六

一二五六〇

開館期間・五月一日～十一月七日

開館時間・十時～十六時

土曜日は十五時

休館日・月曜日、祝祭日

入館料・大人一〇〇円、

子供五十円、大人団体（十人以上）七〇円、子供団体

（同）三十円

交通案内・JR石北線端野

駅より徒歩十五分、北見バス「二区神社前」下車徒歩

一分

（端野町立歴史民俗資料館

社会教育主事 大橋秀規）



## 館 園 紹 介

### 恵庭市郷土資料館

平成二年十一月八日、恵庭開拓発祥の地、恵庭市南島松一五七番地に、恵庭市郷土資料館は開館しました。

位置的には市内三つの市街地（恵庭、島松、恵み野）から二〜五kmとやや遠距離ですが、隣接地に恵庭開拓記念公園があり、春、秋には小学校の遠足コースや家族連れが行楽地となっていて遠さを感じさせません。また、道道島松千歳線に面していて、わかりやすい場所です。現に、オー

ブンして一ヶ月で四千人を超える入館者を迎えることができました。

恵庭市郷土資料館は、昭和五〇年に開設された郷土資料室を前身とし、以来収集された民俗資料約四千点、考古資料四〇万点をベースとして開館しました。

建物の形は歴史を表わす年輪をイメージした中庭を核として半円形に広がっています。

中庭と建物の間に、恵庭の母なる川、漁川を模した水路を巡らし、さらに二階展望台の屋上には、まちのシンボル恵庭岳を現わす六角錐の鉄骨を設けました。館内の造作も、コンクリート打ち放しのグ

レーの壁と、天井は白のしつこい塗り。地味ながらも、お洒落で落ち着いた雰囲気づくりに気をつかいました。また、建物の随所に、市の花スズラや市内出土の土器の文様をあしらうなど、建物全体が恵庭を表現しています。

展示は、六つのテーマで構成されています。第一部「恵庭の大地」では、自然情報の学習コーナーとしてAVシステムを採用、子ども達の人気を集めています。第二部「先住の人々」では、柏木B遺跡環状土籬、北海道式古墳の模型を中心に約百点の遺物を、

第三部「アイヌモシリ」では、丸木舟、ヌササンなどを展示。

第四部「大地をひらく」から第六部「みんなの恵庭」が、先人達の開拓の労苦とまちの発展を示す民俗資料約四百点を展示しています。

このメインは、「恵庭今昔」と題した明治末期と現在の比較マップと、インクラインと呼ばれた森林鉄道の模型です。

正直いって、今回の展示はAVシステムは少なく、動く模型はなし、音のでもものもない、地味なものです。しかし、豊富な実物資料と今後の活動が来館者を惹きつけるものと信じます。

館内には小規模ながら、特別展示室、収蔵展示室、研修室兼体験学習室、調査研究室も設けられました。

これからは、魅力ある特別展、体験学習会なども企画すると共に、特に、資料館に期待されている開拓の歴史の収集（古老の話の採訪）、自然情報の収集に努め、郷土に関する情報基地として信頼され、利用される資料館づくりを目指していきます。

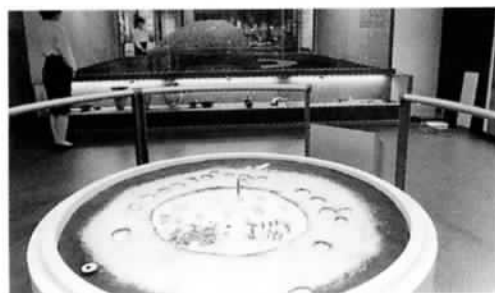


エントランスホール

（利用案内）  
所在地 恵庭市南島松一五七  
電話 〇一二三 三七一  
一二八  
休館日 月曜日、祝日の翌日、  
毎月最終金曜日（資料整理日）、一二月二十八日、翌年一月四日



恵庭市郷土資料館



北海道式古墳と柏木B遺跡環状土籬(手前)



開拓の苦勞を偲ばせる民俗資料

入館料 無料  
交通案内 JR恵み野駅よりタクシード約五分  
(二、二km)

（恵庭市郷土資料館  
館長 長沢一夫）

## 北海道博物館略史(2)

## (4) 札幌假博物館

東京の開拓使假博物館について、明治十年(一八七七)には札幌にも假博物館が開設された。北海道で最初の博物館施設である。当時、国内の地方博物館(場)は、大阪・京都・金沢・奈良・秋田などの数館に過ぎず、札幌假博物館は全国的にも先駆的な役割を果たすことになる。

考古・アイヌ民族資料の五種類となる。

その内訳は動物一、〇一〇点・三九%、植物二〇二点・八%、鉱物二九六六・一一%、産業四四〇点・一七%、考古・アイヌ六三七七点・三五%となっている。

S・クラークの指導により、明治九年(一八七六)に開設された、わが国最初の高等農

た際に、その列品の一部がこの博物館に移されている。

明治十七年に札幌博物館が農学校に移管されて、東京大

設置目的は、東京の假博物館と共通しており、「専ら北海道ノ物品ヲ蒐集シ此ニ展列シテ衆庶ノ縦覧ヲ許シ」博物館一切ノ事務」を担当させるためであった。所管は札幌本庁物産局博物課である。職員は雇(月給二〇円)、小使(月給六円五〇銭)各一人であった(明治十五年現在)。

列品の内容から見た假博物館の特色は、動、植、鉱物の自然史資料が全体の約六割を占めて圧倒的に多いこと、考古・アイヌ資料の収集にも力が注がれたこと、そして、開拓政策と直接関係の深い勸業資料、即ち農・水・工産物の陳列を重視していたことである。

この博物館が博物館に合併されるに至った。

開設場所は、札幌借菜園内(現北区北七条西七丁目)で、開拓使が明治五年に建てた官

総合博物館的性格をもったこの假博物館は、資料の増加にともない陳列場が狭くなり、明治十三年に新館建設の方針が決定し、十五年に札幌博物館が完成すると、新館と共に農商務省博物館に引継がれたのである。

初期の標本は、ベンハロー、ホイラー等の教官に引率された学生達が、夏休みを利用して、長期にわたる探検・調査旅行によつて採集したものが多いが、東京の開拓使假博物館が明治十四年に閉鎖され



開拓使札幌假博物館

陳列品は「年ヲ追テ物品増加シ場内狭隘展列ノ余地ナキ」程になり、明治十五年には約二、六〇〇点を数えるに至った。

陳品を大別すると、獣類・鳥類・魚類・昆虫類・介類などの動物資料、草本類・穀類・植物見本・海藻類などの植物資料、礦物石玉類と称する鉱物資料、製造物類と称する産業資料、古器物類と称する

マサチューセッツ大学学長W・

札幌農学校は、アメリカ・

北海道開拓記念館開拓の村

整備室長 関 秀志

「札幌農学校第一」(第三年報)

「札幌農学校第一」(第三年報)

「札幌農学校第一」(第三年報)

「札幌農学校第一」(第三年報)

「札幌農学校第一」(第三年報)

「札幌農学校第一」(第三年報)

「札幌農学校第一」(第三年報)

「札幌農学校第一」(第三年報)

「札幌農学校第一」(第三年報)

「札幌農学校第一」(第三年報)

「札幌農学校第一」(第三年報)

「札幌農学校第一」(第三年報)

「札幌農学校第一」(第三年報)

「札幌農学校第一」(第三年報)

「札幌農学校第一」(第三年報)

「札幌農学校第一」(第三年報)

「札幌農学校第一」(第三年報)

「札幌農学校第一」(第三年報)

「札幌農学校第一」(第三年報)

「札幌農学校第一」(第三年報)

「札幌農学校第一」(第三年報)

「札幌農学校第一」(第三年報)

「札幌農学校第一」(第三年報)

「札幌農学校第一」(第三年報)

「札幌農学校第一」(第三年報)

「札幌農学校第一」(第三年報)

「札幌農学校第一」(第三年報)

「札幌農学校第一」(第三年報)

「札幌農学校第一」(第三年報)

「札幌農学校第一」(第三年報)

「札幌農学校第一」(第三年報)

「札幌農学校第一」(第三年報)

◇新入会員◇

(団体会員)

忠類村ナウマン象記念館(広尾郡忠類村字忠類)

北海道立北方民族博物館(網走市宇潮見三二三番一)

(賛助会員)

株式会社トリアド工房札幌出張所(札幌市中央区北5条西27丁目ネオアージュヨロ山506)

◇事務局からのお知らせ◇

○平成2年度北海道博物館

○平成二年度北海道博物館

○平成二年度北海道博物館

○平成二年度北海道博物館

○平成二年度北海道博物館

○平成二年度北海道博物館

○平成二年度北海道博物館

○平成二年度北海道博物館

○平成二年度北海道博物館

○平成二年度北海道博物館

○平成二年度北海道博物館

○平成二年度北海道博物館

○平成二年度北海道博物館

○平成二年度北海道博物館

○平成二年度北海道博物館

○平成二年度北海道博物館

○平成二年度北海道博物館

○平成二年度北海道博物館

○平成二年度北海道博物館

○平成二年度北海道博物館

○平成二年度北海道博物館

○平成二年度北海道博物館

○平成二年度北海道博物館

で送付してください。

また、送付済みの館園につ

きましてもう一度確認をお

願いいたします。

○各会員からの道博協ニユ

ースへの原稿を募集しており

ます。

各館園の動向、トピックス、

新着資料や展示紹介、各会員

の意見などをお寄せください。

なお、字数等の詳細について

は事務局までお問い合わせく

ださい。

○会費納入のお願い

本協会の円滑な運営のため、

平成2年度の会費の納入を左

記によりお願いいたします。

特に個人会員の皆様にお願

いたします。

記

(会費)

団体会員 一五、〇〇〇円

個人会員 三、〇〇〇円

(取扱金融機関)

北海道拓殖銀行 新さっぽろ

支店

普通口座 〇一八六一

二八七〇〇〇

郵便振替 小樽七二九四

一九

◇事務局からのお知らせ◇

○2月3日から3月10日ま

での期間、五番館西武百貨店

赤れんがホールで開催されま

す「黄金のエジプト王朝展」

の特別割引優待券(二百円割

引)が事務局に届いておりま

す(四十枚)割引券希望の方

は事務局まで返信用切手同封

の上お申し込みください。先

着順です。

○北海道新聞社より刊行さ

れております、道博協編「北

海道博物館ガイド」の改訂版

作成にあたり、当協会事務局

への協力依頼がありました。

改訂にあたりましては、各会

員への問い合わせ等が予想さ

れますので、その際にはご協

力をお願いいたします。

刊行は平成三年四月下旬を

予定しております。

◇事務局日誌◇

9・4 第4回全国文化学習

情報提供機関ネットワーク

会議(平成2年十一月八日

於仙台市)の開催要領受理。

9・14 忠類村ナウマン象記

念館より協会加入申込書受理。

9・19 平成2年度北海道博

物館現況調査に関する協

力依頼書を関係館園へ送付。

9・19 平成2年度日本博物

館協会顕彰者(道関係5名)

の決定通知書を受理。

9・20 道博協ニュース第32

号発行・各館園へ発送。

9・24 道教委社会教育振興

係より依頼のあった全国各

地博物館大会開催に関する

調査結果の集約を終え、結

果を提出。

9・27 平成2年度第2回役

員会開催の案内状を送付。

10・3 道教委より平成2年

度博物館活動交流推進会議

の後援承諾書受理。

10・18 第30回北海道博物館

大会開催に伴う共催(開催

地)依頼書を苫小牧市教育

委員会へ提出。

10・24 平成3年度第30回北

海道博物館大会補助金申請

書を道教委へ提出。

11・9、10 札幌市北方圏セ

ンター会議室で、平成2年

度博物館活動交流推進会議

(全道ブロック館長会議)

を開催。

11・10 札幌市雪印会館にお

いて平成2年度第2回役員

会を開催。

11・14 棟トリアド工房より

賛助会員加入申込書受理。

11・16、17 北見市北網園北

見文化センターにおいて博

物館活動交流推進会議(道

北ブロック学芸員会議)・

網走管内博物館連絡協議会

開催。

11・17、18 釧路市釧路市立

博物館において博物館活動

交流推進会議(道東プロッ

ク学芸員会議)・道東3管

内博物館施設等連絡協議会

開催。

11・20 道立北方民族博物館

より協会加入申込書受理。

11・20 苫小牧市教育委員会

より第30回北海道博物館大

会共催(開催地)の承諾書

受理。

12・7、8 函館市北海道立

函館美術館において博物館

活動交流推進会議(道南ブ

ロック学芸員会議)・道南

ブロック博物館施設等連絡

協議会開催。

(平成3年)

1・17 道博協事務局会議。